



滋賀県教育委員会事務局高校教育課 令和6年9月

令和6年8月6日(火)に県総合教育センターで第2回・第3回英語エッセンシャル研修を実施しました。午前中は敬愛大学英語教育開発センター長・国際学部国際学科教授 向後秀明先生より「言語活動を通じた英語力向上を目指す指導方法-授業改善のための視点と指導の実際-」について、午後は筑波大学人文社会系大学院グローバルコミュニケーション教育センター教授 小泉利恵先生より「高校におけるパフォーマンステストでの考慮事項」、関西大学外国語学部外国語学科助教 常本亜希先生より「聞き手にわかりやすい音声の指導と評価」について、それぞれ講演を行っていただきました。

▶ 第2回英語エッセンシャル研修(講師:敬愛大学 向後 秀明 教授)

学習指導要領を踏まえた言語活動の実践や評価について (向後先生作成資料より)

- ・ **分かりやすい授業の落とし穴**
→「英語についての学習」に陥り、英語そのものに触れたり、実際の場面で英語を使用したりする時間が減少
- ・ **言語活動でつなぐ小中高連携**
→学習指導要領「解説」の「付録」にヒントあり
- ・ **やる意味のある指導計画の作成と言語活動の実際**
→単元計画に含めるべき要素は「学習到達目標・単元の目標・単元の評価規準・言語活動・評価」
- ・ **「話すこと [やり取り]」の言語活動を幅広く考える**
→即効性+言語形式の要素を含んだスピーキング活動を
→書く活動の前に話す活動を

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 英語コミュニケーション I
聞くこと Listening			
(7)身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。	(7)自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(7)日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。	(7)日常的な話題について、話される速さが調整された、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
(4)身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(4)日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報やイメージを聞き取り、それを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(4)店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取り、内容を把握する活動。	(4)店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取り、内容を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
言語活動を「横」で見る			
(4)文字の読み方が発音されるのを見て、活字で書かれた文字と結び付ける活動。	(4)友達や家族、学校生活などの日常会話や説明を聞いて、必要情報を得る活動。	(4)友達や家族、学校生活などの日常会話や説明を聞いて、必要情報を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。	(4)社会的な話題について、話される速さが調整された、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

単元計画に含めるべき要素

目標・評価規準・言語活動・評価

「英語コミュニケーション I」単元計画概要(サンプル)

学習到達目標	単元の目標	単元の評価規準	主な言語活動	評価	
				月	方法
話すこと [やり取り] イ	見たり聞いたりして得た情報を参考にしながら自分の考えをまとめるために、「job perks」に関する映像教材の概要を理解するとともに、自分が職場で得たい「job perks」は何であるかを、その理由を含めて話して伝え合うことができる。	知識・技能 … 思考・判断・表現 … 主体的に学習に取り組む態度 …	“Job perks I'd like to get as teachers” についての意見交換 “The best job perks for teachers” についてのやり取り	7月	授業内で個別インタビュー ※教師 2名配置 ※各生徒 2分

当該単元で扱う「言語材料」(語、文法事項、文構造など)は、必要に応じて、「単元の評価規準」の「知識・技能」の欄に入れ込む。

受講者の感想

- ・ 普段本校でしている観点別評価と今回研修にあったものに違いがあり、修正しなければいけない箇所がいくつか見つかった。また、具体的な実践例をたくさん紹介してくださり、これからの授業で大変実践しやすいと思った。
- ・ 英語教育の幅広い分野について、本当に知りたいことが知れた充実した研修だった。今後の実践に生かしていけるよう、夏休み中に案を考えていきたい。
- ・ 今後の授業改善をイメージできる具体的な活動を紹介していただき、とても勉強になった。
- ・ とても実のある研修であった。学びの多い研修であった。たくさんの活動を教えていただいたので、自分の学校の生徒のレベルに合わせて、積極的に言語活動を行っていきたい。



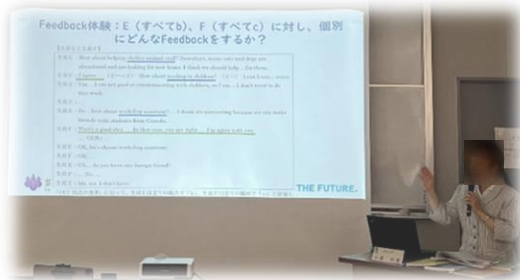
▶ 第3回英語エッセンシャル研修（講師：筑波大学 小泉 利恵 教授）

パフォーマンステストを行うべき理由

- 生徒の書く・話す力をバランスよく評価することができる。
- テストで測ることで生徒に書く・話す力の重要性を伝えられる。
- 授業者が英語力を総合的にバランスよく知ることができる。その評価結果をもとに指導の改善ができる。

話す力を高めるためのテスト 7原則

- 1) 継続的に評価を行う。
- 2) タスク形式や個々のタスクは、指導目標と指導内容と一致させる。
- 3) ルーブリックは、測りたい力を明記し、事前に示す。
- 4) 自己評価と相互評価を奨励する。
- 5) 結果の返却時には、可能な範囲で、具体的で詳細なフィードバックを行う。
- 6) 結果は採点者によって大きく変わらないようにする。
- 7) テスト運用は実行可能性が高いものにする。



受講者の感想

- パフォーマンステスト実施にあたっての評価の仕方や実施方法など詳しく教えて頂き、今後、すぐにでも実践できるヒントをたくさんいただくことができた。
- ルーブリックの作成と生徒への共有等を行っているが、生徒たちの意識をそこに向けていることが十分にできていないように感じる。今後は生徒たちが分かりやすく取り組みやすいルーブリックの作成にも取り組んでいきたい。



（講師：関西大学 常本 亜希 助教）

「聞き手にわかりやすい音声」の指導と評価

【指導面】

- **理解しやすい音声**：聞き手にとって理解するのに負担が少ない音声
- **理解しやすさに重要な要素**：
 - 1) 発音（音素、プロソディ）
 - 2) 発音以外（語彙、文法、談話構造、非言語情報など）
- **発音指導**：機能負担量の大きい音、語・文強勢、区切り等に焦点をあて指導すると、理解しやすさの向上につながる

【評価面】

- **理解しやすさの評価**：指導した項目に関わるものをルーブリックを用いて評価する



普段のパフォーマンス活動・評価の充実につなげる

受講者の感想

- 発音の指導についても曖昧にしていた所があったので、本研修で明確になって良かった。
- 音声学は大学で専攻していたこともあり、大変共感できる内容であった。現状としてパフォーマンステストを実施する際に音声面の指導や評価を行えていない。現状を改善するための教育的示唆を得ることができ、大変興味深く講義を拝聴できた。
- 普段あまり生徒に指導できていない発音指導において重要な点についてお話をいただいた。特に子音の発音を重視して指導することや、プロソディーにも着目して指導していきたいと思った。



次回の研修

○第4回英語教育エッセンシャル研修

日程：令和6年9月13日（金）13:30-15:30

内容：言語活動を通じた英語力向上を目指す指導方法②

講演者：岐阜大学教育学部英語教育講座 巽 徹 教授

開催方法：オンライン開催



発行

令和6年（2024年）9月5日

滋賀県教育委員会事務局 高校教育課 077(528)4571

滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課 077(528)4665